様式3

学校番号 94

令和5年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立鞍手竜徳高等学校

自己評価

学校運営計画（4月）

学校運営方針	教職員が一丸となり組織的に生徒に基本的な生活習慣と学習習慣を身に付けさせ、生徒一人一人の進路実現を図るとともに、自らの志に向かって意欲的に学び、自律心と思いやりの心をもつ生徒を育成する。		評価（総合）
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
本校の更なる魅力向上に向け、地域と連携した教育活動を充実し、生徒の活動を積極的に発信して、地域に根差した学校の役割を推進する。コロナ期で培われた新たな教育活動や整備されたICTを活用し、心の教育や授業改善の推進を図る。また、従来の生徒指導を見直し、時代に則した方針を定める。	1 基礎学力の定着と自学自習力の習得	ICTを活用した興味・関心がもてる“わかる授業”を展開し、明確な目標及び評価方法を明示し実践して、基礎・基本の学習内容の定着と活力ある授業づくりを行う。	
	2 規範意識の向上と健やかな心身の育成	全職員の共通理解のもときめ細かな生徒指導を行い、基本的生活習慣の徹底と規範意識の高揚を図る。生徒が主体的に活躍する場を設定し自信を持たせる。	
	3 進路希望実現のためのキャリア教育の充実	系統的なキャリア教育を通して生徒の進路意識を高め主体的な進路実現を支援する。各系列の実習等を通して社会に通用する資格取得を支援する。	
	4 人権教育の推進及び人権に関する意識・態度・行動力の育成	全ての教育活動を通して人権意識を高め、人権が尊重され一人一人が大切にされることが実感できる学校づくりを推進する。	
	5 地域から信頼される学校づくりの推進	地域に根差し、地域に開かれ信頼される学校を実現するために、学校の様々な情報を保護者のみならず、地域社会に向けて積極的に広報する。	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題
学務部	教務課	基礎学力の定着と学ぶ力の育成	定期考査やキャリアスタディに向けた学習を、主体的・計画的に取り組ませる。		
			自ら問題意識をもち、大きく変化する社会への対応、課題解決に向けて努力する生徒を育てる。		
		学習意欲を向上させるためのわかる授業の実施	解決までの指導助言を適切に行うことで、解決した時の喜びを味合わせる。		
			ICTを活用して、生徒に興味関心を抱かせ、「わかる授業」を実践する。		
	情報管理課	ICT活用研修の推進による、教員の授業力向上、生徒の基礎学力向上	研究授業におけるICT機器の活用を推進し、ICTの多様な活用方法を全教職員で共有する。		
			研修庶務課等と連携して、主体的・対話的で深い学びとICTの活用を関連させた研修を3回以上実施する。		
		ICT化の推進による、教員の各種業務の負担軽減	統合型校務支援システムの運用を円滑に行い、便利な機能を活用することで、効率的に業務を行う。		
			各種業務のICT化を推進し、様々な事務処理の負担を軽減する。		
生徒部	生徒指導課	基本的生活習慣の確立	遅刻者数の減少及び非行の未然防止を目的とした指導を全職員共通理解のもと、きめ細かく行う。		
			学年主任、教務部長と連携を図り、組織的に指導を行う。		
		規範意識の向上と健やかな心身の育成	ルールやマナー、集団生活に関する指導を充実させ、自他を思いやる豊かな人間性を育む。		
			生徒等の意見も参考にしつつ、時代に則した生徒指導や校則の見直しを行い、更なる規範意識の向上を図る。		
	保健環境課	生徒の健康管理及び安全管理の推進	定期健康診断の実施及び事後措置、CPR(心肺蘇生法)研修の実施を行う。		
			生徒の日々の保健室利用状況に関する情報を学年及び担任へ提供し、体調管理などの対策をとる。		
		校内外における美化意識の向上	日々の学校生活や清掃活動を通して生徒に美化意識をもたせ、明るく活気があり清潔な学習環境をつくる。		
			ごみの分別を生徒に周知徹底させ、ごみの減量など環境に配慮した生活を身につけさせる。		
進路部	進路指導課	各学年の進路指導の充実による進路実現	クラス担任との連携を密にし、生徒の実態や社会情勢に応じた資格取得を推進し進路実現を支援する。		
			各学年の進路行事の目的を明確にし、生徒の進路意識の向上を図り、希望進路実現につなげる。		
		進路関連行事のより一層な充実	進路の手引きを活用した進路指導により、進路実現に向けた計画的な進路指導を実施する。		
			キャリア学習課と連携して進路ガイダンスの充実に努め、希望進路実現に向けた指導を行う。		
	キャリア学習課	「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」「キャリア形成」の円滑な実施と運営	3年間のキャリア教育を見据え、各学年の到達目標を明確に設定し、学習活動を系統的かつ円滑に実施する。		
			該当学年団と連携して「総合的な探究の時間」「キャリア形成」の充実を図る。		
		科目選択に向けたガイダンス機能の充実	カリキュラムガイダンスの学習内容を充実させ、進路実現における適切な科目選択を実現させる。		
			科目選択に関する各学年職員の事前ガイダンスを行うことでスムーズな科目選択を実施する。		
企画部	研修庶務課	職員研修の充実と精選	時宜に応じた職員研修を行うことで教員の指導力の向上を図り、職員間の共通理解による効果的な教育活動を推進する。		
			本校の教育課題解決に向けて、職員が多くの知識を吸収し実践につながることができる研修を企画する。		
		PTA活動の活性化	PTA各委員会の業務内容を精選し、PTA活動の充実、協力体制の組織化を行う。		
			他の分掌や、保護者との協力体制を図り、保護者と学校の連携による企画や取り組みを効果的に進める。		
	広報課	地域や中学生に発信する広報活動に必要なコンテンツの充実	学校HPや学校紹介ビデオ、その他刊行物の内容を学年、系列、部活動と協力しながら充実させる。		
			「中学生体験入学」や「進路相談事業」で学校の魅力ある取り組みや進路実績を地域社会に向けて発信する。		
		学校公式マスコット「りゅうとくん」の認知度向上	生徒と協力して「りゅうとくん」の魅力を引き出すイラストを作成し、20周年記念事業の広報活動に活用する。		
			イラスト入りのグッズの作成や、HP等での活用を積極的に行う。		
人権・同和教育部		すべての教育活動を通して生徒の人権意識を高める指導の推進	人権・同和教育授業における指導内容の共通認識を図り、効果的な人権学習指導ができるように努める。		
			人権学習の振り返りや新入生対象の人権教育アンケートを通して、状況に応じた効果的な指導を行う。		
		特別支援教育推進のための啓発と組織的な支援体制構築の推進	生徒の進路実現に向けて、特別支援教育コーディネーターやカウンセラーと連携した修学支援を行う。		
			修学支援委員会等を活用して情報共有を行い、各年次や家庭、関係機関と連携して生徒を支援できる体制を構築する。		
第1年次		基本的生活習慣の確立	家庭との連携を密に図り、遅刻・欠席をさせない指導を行う。		
			定期的に個人面談を行い、状況把握に努め、生徒の抱える諸問題に早期発見・解決を図る。		
		互いに尊重し合える人間関係の構築	相手のことを考え、他者との違いを理解するため、クラス単位やグループ活動の場を作る。		
			言葉遣いを気を付けるよう声掛けし、互いを思いやる心がけができる人間関係を育む。		
第2年次		基礎学力の定着及び向上	考査や日々の学習など、生徒が事前に準備できる学習環境を整える。		
			課題の提出や授業への取り組み方など、考査の学習以外の面を教員全員で指導する。		
		協働性の向上	集団の中の一員であることを意識させ、「ルールの中に、自由がある」ことを理解させる。		
			つねに周囲を思いやり、お互いが高め合う集団となるように努める。		
第3年次		社会人基礎力の育成	自尊感情を高め、意欲を喚起するために、前向きな声掛け及び建設的なアドバイスに努める。		
			話を聞く態度・姿勢に関する指導の徹底を図るとともに、自己表現ができる機会を意図的に作り出す。		
		希望進路の実現	家庭との連携を図りながら、具に希望進路を確認し、求人状況を遅滞なく発信する。		
			受験先の試験内容を過去の受験報告書から調べ、受験先に応じた試験対策を講じる。		

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・
・
・
・
・

学校関係者評価

評価（総合）	自己評価は A ： 適切である B ： 概ね適切である C ： やや適切である D ： 不適切である
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

評価項目以外のものに関する意見